

福祉プラスのまちづくりコンセプトブック @草加市

福祉

ふみだしたり、ふくらんだり

ふみだしたり、ふくらんだり





たのしむことに
境目はいらない!

まざりあって、
だから
とけていく。



最近、草加市の
「ふくらむフクシ研究所(後ページで紹介)」の
周辺で生まれている風景たちです。
なんだか楽しそうな写真が多いですね。

障がいのあるなしに関わらず、
楽しさやワクワクをきっかけに関わることで、
その後も続くつながりが生まれます。
混ざること、不安や「どうやって関わればいいんだろう？」
という気持ちがとけてなくなっていきます。

これまでになかったような関わりが生まれている背景には、
なにがあるんだろう？
次のページからは、背景にある考え方や具体的な活動、
イベントの様子などについて触れていきます。

福祉+プラスのまちづくり

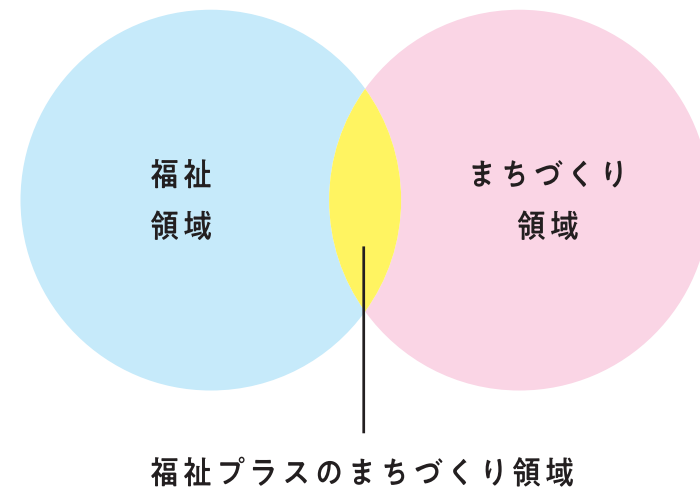


草加市の
ビジョン

SOKA CITY

福祉プラスのまちづくり

福祉プラスのまちづくり事業は、福祉領域とまちづくり領域をやわらかく重ね合わせていく取り組みです。福祉領域には「障がいのある人がどのようにして地域で楽しく豊かな暮らしをつくっていけるのか?」というテーマがあります。一方でまちづくり領域には「どのようにして本当の意味で多様な人たちが関わりながらまちづくりを進めていけるのか?」というテーマがあります。福祉プラスのまちづくり事業では、それらのテーマを重ね合わせながら「いろんな人たちがともにつくり、ともに楽しめる地域や暮らしとはなにか?」を模索し、共創しています。



活動
チーム

{ふくらむ}
つくし
研究所

ふくらむつくし研究所

研究

実践者から学んだり、ヒアリングをしたり、現地視察をしたりしながらすでにある情報や事例から学びます。

活動

イベントを企画したり、ワークショップを開いてみたり。研究員のやってみたい!興味ある!から実験的な動きをつくります。

ふくらむつくし研究所(略して「ふくつく研」)は、研究と活動を組み合わせながら、「福」祉の世界に新しい価値を「膨」らませ、また「含」ませていく取り組みを行っています。そのためには、一方向的な関わりではなく、対話的な関係性づくりをする必要があります。支援される側と支援する側、障がいのある人と障がいのない人、福祉サービスと日常生活という境界をにじませながら、多様な暮らし手が「ともに生きる」を実践しています。

「ふくつく研」に関わる愉快的な研究員をちょっぴりご紹介!

せきね 共子さん
保育士/心理士/
NPO法人believe副代表
「小さなことに大きな愛をこめて♡」をモットーに、草加のマザーテレサをめざしています♪

ひらた るみさん
理学療法士もしくは
笑い声屋さん
草加市で人と交わり暮らしながら、喜怒哀楽のまま生きてます!

よこた あゆみさん
横田 歩美さん
作業療法士かもしれない
横田家の雑な暮らしのススメ(好評発売中という嘘)。交わる人々と遊んで暮らして地域を耕しています!

しもだ たけふさん
霜田 健成さん
越谷特別支援学校中学2年生
(絶賛反抗期中)
筋肉の弱い病氣です!それでも、車椅子で毎日走り回っています。「人生楽しんだもん勝ち!」

こじま なおさん
小嶋 直さん
つなぐば家守舎のしゃちょー
コーヒー淹れたり、家やお店の図面描いたり、ほしい暮らしをつくらうために駆け回っています!

ばば けいすけさん
馬場 啓介さん
楽しく過ごせるまちを
考える人
出かけやすいまちとは?思い出が残る風景とは?そんなことをいつも模索しています。

ほりきりりきさん
堀切 里紗さん
就労移行支援事業所
キャリア草加 管理者
草加の地へ飛び込み、障がいのある方の就労支援に日々邁進中!必殺技は「よく通る声」。

まつした ゆうきさん
松下 祐樹さん
草加かがやき
特別支援学校教諭
面白いことが大好き!特に運動やスポーツを通していろんな人とつながるのが好きです!

もりおか ともこさん
森岡 ももこさん
就労継続支援B型+motsu.
施設長
2023年、念願のB型事業所を開設。夢に向かって時にオロオロしながらワクワク爆進中!

もとむら のりこさん
本村 典子さん
鍼灸師/
株式会社テンシールド 代表取締役
意志あるところに道は開ける。犬好き、仕事好き。心のバリアフリーを目指しています!

ふくらみレポート

これまで行ってきたさまざまなイベントやワークショップ、トークライブの様子をお届けします。読者のみなさんの福祉観が「ふくらむ」かも！

ふくらみレポート

01

ふくフク トークライブ1

2023年
9月実施

福祉を地域に開いていくって
どういうこと？

福祉が日常にひそむ状況をつくる

宮崎県三股町で活動する「コミュニティデザインラボ(三股町社会福祉協議会)」の松崎 亮さんと、東京都多摩市で活動する「+laugh」の影近 卓大さんによるトークライブを開催しました。聞き手は、草加市で長年福祉に関わる活動をしている関根 共子さん。日常に福祉をひそませる、タッチポイントをずらす、わかりやすさに走らない、自分がまず地域を好きになるなど、ゲストから地域と福祉をにじませていくための金言をたくさんいただきました。

会場

THE COCO CAFE's

不動産の事務所とカフェが併設された空間。「理想の暮らしが買える店」として2013年より運営されています。フルーツサンドがおいしかった、



草加でいろいろヒアリング

福祉に関わる活動をしている団体や企業、障がい者雇用などを進めている企業にヒアリングしました。

<聞き取り団体・企業(順不同)>

埼玉県立草加かがやき特別支援学校、社会福祉法人草加市社会福祉事業団、社会福祉法人光陽会、草加光陽育成会、一般社団法人キャリアカ、NPO法人walea、NPO法人believe、株式会社ひいらぎ、NPO法人JIA、ウェルビー株式会社、社会福祉法人草加市社会福祉協議会、草加市聴覚障害者協会、草加市手話通訳問題研究会「手話友の会」、株式会社長谷川製作所、株式会社デリモ、株式会社Daisy Fresh、森紙器株式会社、つなぐば家守舎株式会社、株式会社小島商事、ユーテック株式会社、有限会社イワナガ、株式会社アークス

ふくらみレポート

02

ふくフク 映画祭

2023年
12月実施



会場

草加市立松原児童青少年 交流センター「miraton」

「松原っ子タウン」を目指すmiraton。子どもたちの居場所でもあり、まちづくり活動の発信基地でもある場所です。

ユニバーサルな映画祭

走り回っても、大きな声を出しても大丈夫。それが「ふくフク映画祭」です。福祉や障がいに関わる映画や子どもが楽しめる映画など、合計で6本の映画を上映。300名を超える方が会場に集まりました。子ども向けの映画の上映の際は、寝転んだり床に座ったりしながら楽しむ子どもたちも。自由な景色が広がっていました。



ふくらみレポート

03

ふくフク トークライブ2

2024年
1月実施

「フクシ」にまつわるいろんな人の
話を聞いてみよう！

登壇者コメント

ながの りょう
長野 僚さん

Try chance代表／株式会社ePARA

障害を忘れるくらい楽しい時間を見つけました。みんなも大丈夫！お互いを理解し合い、笑って生きていける社会をつくっていきましょう。



さまざまな視点や価値観で、 フクシがひろがる・ふくらむ

障がいのある人、家族に障がいがある人、福祉の世界を広げる人など、さまざまな視点からたっぷりと語られたトークライブ。自分の歩みを見つめたり、一歩を踏み出す勇気がもらえたり。草加の福祉に新しい未来を描くことができる、と誰もが確信を持てた貴重な一日となりました。



ふくフク 商店街

いつもよりちょっぴり
フクシがふくらむ商店街

2024年
2月実施



日常の風景
非日常からつくる



車椅子の後ろに
乗って移動もできる！

草加ではお馴染みとなったウーバーリョーツ（車椅子タクシー）というコンテンツ。なかなかできない体験なので、ぜひ一度みなさんも試してみたい。どこでやねん。あ、電動車椅子の後ろに乗るのは「おんぶ」で歩くのと一緒なんですって。



商店街でさまざまな体験を

「ふくフク商店街」では、さまざまなお店や拠点をベースに「障がい福祉体験企画」や「商福連携の商品開発」、「障がいのある人の働くチャレンジ」などを実施・サポート。いつもとはちょっとだけ違う商店街をみなさんに楽しんでいただきました。

いろんな人がお手伝いに

当日のお手伝いで参加した20名ほどのサポートスタッフのうち、約半数にあたる11名が障がい当事者。なかには受付を担当した失語症（話す・聞くなどがうまくできない状態）の方でも、企画の関係で「会話禁止」になった方に「俺の気持ちがあったか！」と言投げかけたんだとか。

イベントに参加した方のお声



はじめましての
女の子を誘導

よしだ ほるか
吉田 陽香 さん

アイマスクを付けた女の子の「目」として彼女を誘導することに。初対面でしたが自然と打ち解けられて、そんな関わりが嬉しかったです。



普段いらっしゃらない
ようなお客さんも！

ecoma coffee オーナー
よし おか じゅんぺい
吉岡 順平 さん

初めてご来店するお客様もいらっちゃって、なかなか触れることのない福祉の世界に触れることができて、新鮮な体験ができました！

ふくらむフクシ研究所 ふくらみレポート



二人で仲良く
車椅子に乗ったり、
車椅子を押したり。



ふくフク商店街に関わったお店紹介！

oyatsu&coffee PAKAN

就労継続支援B型事業所とコラボしたクッキー製作プロジェクトが誕生。レシピ提供だけでなく、焼き方のアドバイスやつくる際のコツまで教えていただきました！



ecoma coffee

アイマスクやバッテンマスクをつけて、いろんなお客さんに「なりきる」企画を実施。「見えないとコーヒーの味って変わるんだね」「話せないとホント大変」など、なりきってみてはじめてわかることが盛りだくさん！



野菜とお酒のバル スバル

障がいのある子もいない子も一緒に料理教室を開催。型抜きで刻む自由な発想！野菜嫌いの子も山盛りを完食！料理の大変さと楽しさを、子どもたちの素敵な笑顔が見られました。



sosopark

焚き火を囲んでの焼きマシュマロに舌鼓。電動車椅子の後ろに乗る体験コンテンツではたくさんの人の笑顔が見られるなど、通りがかりの方の目にとまる仕掛けになりました！



おーぐぱん

地域の方々の心をグッと温かくするパン屋でオリジナルサンドイッチづくり。好きな具材を選んでトッピングし、障がいのあるサポートスタッフがラッピングしてくれました。たくさんのお客さんで即完売！



みんなの保健室 陽だまり

にんじんジュースが評判の「陽だまりカフェ」をはじめ、折り紙教室や牛乳パックのコマづくりなど、盛りだくさんの企画に子どもから高齢の方まで多世代が集い、笑顔があふれていました。



ふくフク フェス

いろんな人が
楽しめるフェス

2024年
3月実施



みんなの「やりたい」で、 イベントはふくらむ

ふくらむフクシ研究所による研究活動の集大成。「みんなで踊ったら楽しそう!」「おしゃれができるような企画がほしい!」などのワクワクの種をもとに、実行委員を中心として準備を進めました。松原団地記念公園内を広々と使った盛りだくさんなコンテンツに来場者は3,000名にも、たくさんの方で溢れかえりました。

参加者も出店者も 運営メンバーもさまざま!

会場にいたのは子どもや大人はもちろん、高校生や高齢の方など、年齢の多様性が見られただけでなく、車椅子に乗った方や白杖をつく方、耳の聞こえない方なども。さまざまな背景を持つ方が集い(馬や鷹といった普段は見かけない動物も!)、まさしく「地域共生社会」を体現するような企画となりました。

まちなかの公園内で 乗馬体験!?

医療的ケア児(医療的ケアが日常的に必要な児童)のポニー乗馬体験もふくフクフェスならではの光景。でも噂によると、ポニーというよりは馬くらいのサイズだったんだとか!



みんなの
「やってみたい」が実現!

ふくらむフクシ研究所 ふくらみレポート



ふくフクフェスのコンテンツ紹介!

出店

福祉系の事業所もそうでないところも、飲食や物販、ワークショップなどのさまざまなブースが50店舗ほど集結!子どもたちがハンドメイド品やいらなくなったものを売る「こどもフリマ」も行いました。



体験

視覚障がいのある方による五感を使った地図づくりワークショップなど、障がい福祉に関する体験を複数実施。中でも競技用車椅子の試乗体験や卓球バレー、カーレットなどの運動系コンテンツは、多くの方で賑わいを見せていました!



ステージ

三味線や放課後等デイサービスに通う子どもたちによるバンド演奏といった観たり聴いたりするコンテンツはもちろん、手話パフォーマンスや「みんなでダンスタイム」、青空ヨガのような一緒に体を動かせるコンテンツも行われ、会場に一体感が生まれました。



イベントに参加した方のお声



参加しやすく、
しかも楽しめるフェス!

もとほし あや
本橋 亜弥さん

車椅子の娘と参加しましたが、多目的トイレの案内がわかりやすく安心しました。ブースでは乗馬体験をさせてもらい、楽しめました!



障害のない人も、ある人も。
大人も、子どもも。

ソーシャルバーPORTO代表
しまだ たくみ
嶋田 匠さん

いろんな人たちで、バーをやりました。いろんな人のいろんな事情と、いろんな人のいろんな優しさがそこにありました。

INTERVIEW

インタビュー

「ふくらむフクシ研究所」との出会いがどのような変化をもたらしたかを探る「ふくらむフクシインタビュー」。
障がいのあるお子さんを育てるおふたりにお話をお伺いしました。

CASE 01

しりびき あやこ
尻引 文子さん

草加光陽育成会役員。草加市障がい者
施策協議会。障がい
のある子の料理教室
も主催。



なかがわ ふみこ
中川 文子さん
ヘルパー。母と義母
の介護を経験。息
子の敢太が生活介
護事業所paceに通
所中。

つながりを大事にした 子育て時代

尻引さん：娘が自閉症と診断されたのは2歳くらいの時でした。知人から紹介された親の会に参加して、障がいのある子の育て方について話を聞いていましたね。

中川さん：私は高齢出産で子どもが生まれただけでも嬉しかったのですが、ダウン症の中でも手のかかる身体の弱い子でした。母も介護が必要でそれだけで手いっぱいなのに、当

時は人間関係もしんどくて。いろんな人に相談していました。

尻引さん：「孤育て」で精神的にしんどくなることも多いので、人とつながるのってやっぱりすごく大事。今は障がいのある子どもがいる若い親と出会う機会が少なくて、どうして

中川さん：福祉サービスも少しずつ増えてきているけど、使いにくかったり、使えなかったりして、大変な思いをしている人もきっといます。

感じますよね。連携してもらえると、ひとりで頑張らなくていいんだって思えます。

さまざまな出会いが 希望の光に

尻引さん：「ふくらむフクシ研究所」との出会いは最初のトークライブに知人が登壇していたのがきっかけです。

中川さん：私も知人の登壇がきっかけ。ちょうど息子の体調が落ち着いたタイミングで、人との関わりもほしくて参加しました。

尻引さん：当日は会場に入りきらないほど参加者がいて、こんなに福祉に興味のある若者がいたんだって衝撃を受けましたよね。何か変わるかもしれないって。

中川さん：福祉業界の人手不足を感じていたし、いろんな悪い事件が起きていたから閉塞感を覚えていたんですけど、ほんのちょっとだけ暗闇に光が差したような希望を感じて、ワクワクした気持ちになりました。

尻引さん：福祉事業所同士の横のつながりもさらに強くなったように

地域に「やさしいつながり」をつくる

尻引さん：さまざまな事例を知れたことも、「ふくフク研」に関わってよかったことのひとつですね。選択肢が分かると「どうにかしてほしい！」ではなくて、具体的に声をあげることができるので。

中川さん：老若男女、障がいのあるなしにかかわらず温かく迎えてくれる居場所の話よかったですね。

尻引さん：関わることってすごく大事ですもんね。

中川さん：みんな知らないから怖いって感じるんですよ。私はこれからでもできるだけ子どもと一緒に外に出て行きたい。障がいのある人も楽しく出かけられるまちになったらいいな。



尻引さん：関わり方がわからないって言うけど、大丈夫だよって笑顔を見せてくれるだけで十分。あとは障がいのある方にやさしいお店マップなんてものもつくってみました。親がいなくなった後も、安心できる世の中にしたいですね。

中川さん：地域の「やさしいつながり」を育んでいきたいですね。

尻引さんと中川さんの

／ 心とアクションの変化のプロセス ／

安心して障がいのある子ども育てていけるよう、当事者の親の仲間を増やす。

福祉関係の知人が関わっていたことで、新しいコミュニティ（ふくフク研）に参加。

若者や異業種など関わりが少ない方との出会いに刺激を受け、やりたいことを模索中。

地域を育む
笑顔に向けてくれる
「大丈夫だよ」って



INTERVIEW

インタビュー

「ふくらむフクシ研究所」との出会いがどのような変化をもたらしたかを探る「ふくらむフクシインタビュー」。
車椅子ユーザーの荒木さんと、荒木さんの就労支援を行う霜田さんにお話をお伺いしました。

CASE 02



あら き りゅうが
荒木 琉河さん
中途障害の車椅子ユーザー。福祉事業所を卒業後、市役所に勤務。月2回車いすバスケットをする。



しも だ のぶひこ
霜田 伸彦さん

「個に寄り添う」をモットーに福祉事業所を運営中。息子と携帯ゲームに絶賛ハマリ中。



できるできないよりも、
やってみることの大切さ

霜田さん：今回ふくフク研に関わって、いろんな人たちに会えて良かったなと感じてます。生まれ育った草加にもう一度目を向けようという気持ちにもなりました。

荒木さん：僕を誘ってくれたのはどうしてですか？

霜田さん：荒木くんは人が好きだから。たまに弱音を吐くこともあるけど、いつも誰かの役に立とうとして

いるから一緒にやってみようと思えたのかな。

荒木さん：1月のトークライブで進行役を務めた時も、たくさん相談させていただきましたね。「チャレンジするだけで成功だから」と霜田さんに言われてやってみようと思えました。

霜田さん：大成功だったね！

荒木さん：人前で話すことって緊張するし、大変なんだなって感じました。校長先生とか、よく大人数の前で話せるなって(笑)

もっといろんな場に
巻き込まれていきたい



関わることで生まれた
「福祉」ってなんだろう

荒木さん：僕が関わった中で嬉しかったことは、3月に実施したふくフクフェスで、車いすバスケットで使用する競技車両の試乗ができる体験ブースを任せてもらったことです。実際に競技車両に乗ることってなかなかと思うので、体験したことをきっかけに、より多くの方に車いすバスケットなどの競技を知ってもらえたらいいなって。

霜田さん：ブースを任せられたり、人とのつながりが増えたりする中で、考え過ぎることも多かったんじゃない？

荒木さん：すごく考えました。人との関わりが増えれば増えるほど嬉しいって思いながらも、同時に福祉ってなんだろうって。

霜田さん：踏み込んだねえ！

荒木さん：僕は車椅子ユーザーで障害福祉サービスを受ける立場ではあるけど、福祉は障がいに限らなく

て、福祉ってもっと幅広いものなんだって。「福祉ってなんだろうな」って考えるようになりましたね。

遠くから眺めているよりも、
関わっていたい

霜田さん：考え過ぎてパンクすることもあると思うけど、それを越えたら荒木くんはすごい人間になれるんじゃないかって思ってる。だから今はいっぱい苦労しちゃいなよ。

荒木さん：今はいろんな意味で修行中ですね。ふくフクフェスみたいに、何か企画がある時は会議からでもいいから声をかけてもらえたら嬉しいですね。SNSの投稿を見ているだけでなく、直接関わってみたいです。

霜田さん：SNSは一方通行だからね。今回の冊子づくりワークショップで「こんなイベントパンフレットは嫌だ」というテーマで話をした時も、「主催者側のエゴが強いものは嫌



だ」っていう意見を出して。きっと今言ってくれたことも、一方通行だけになるんじゃないかって、もっと同じ人間同士お互いにつながっていいよって気持ちがあるのかな。

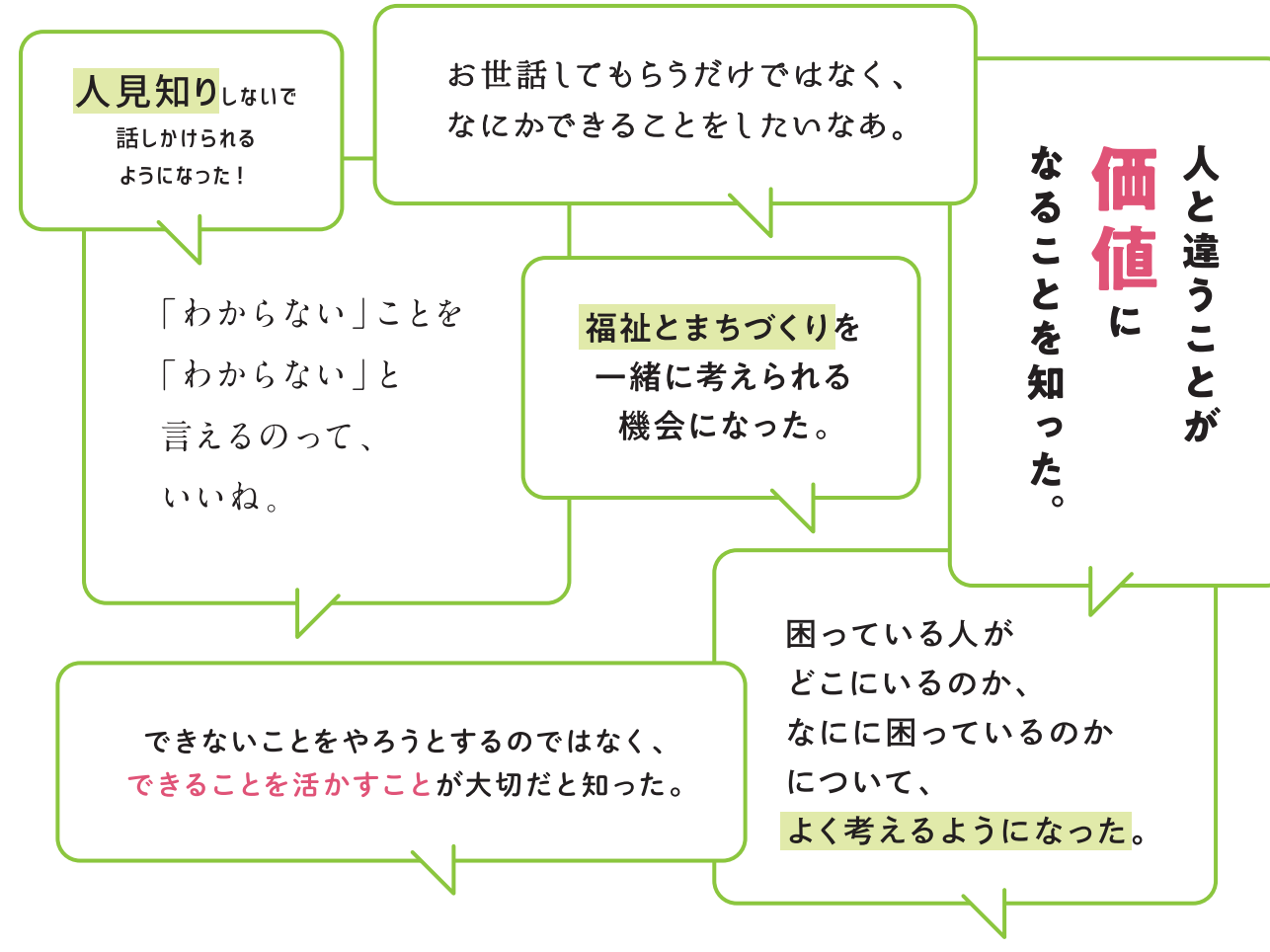
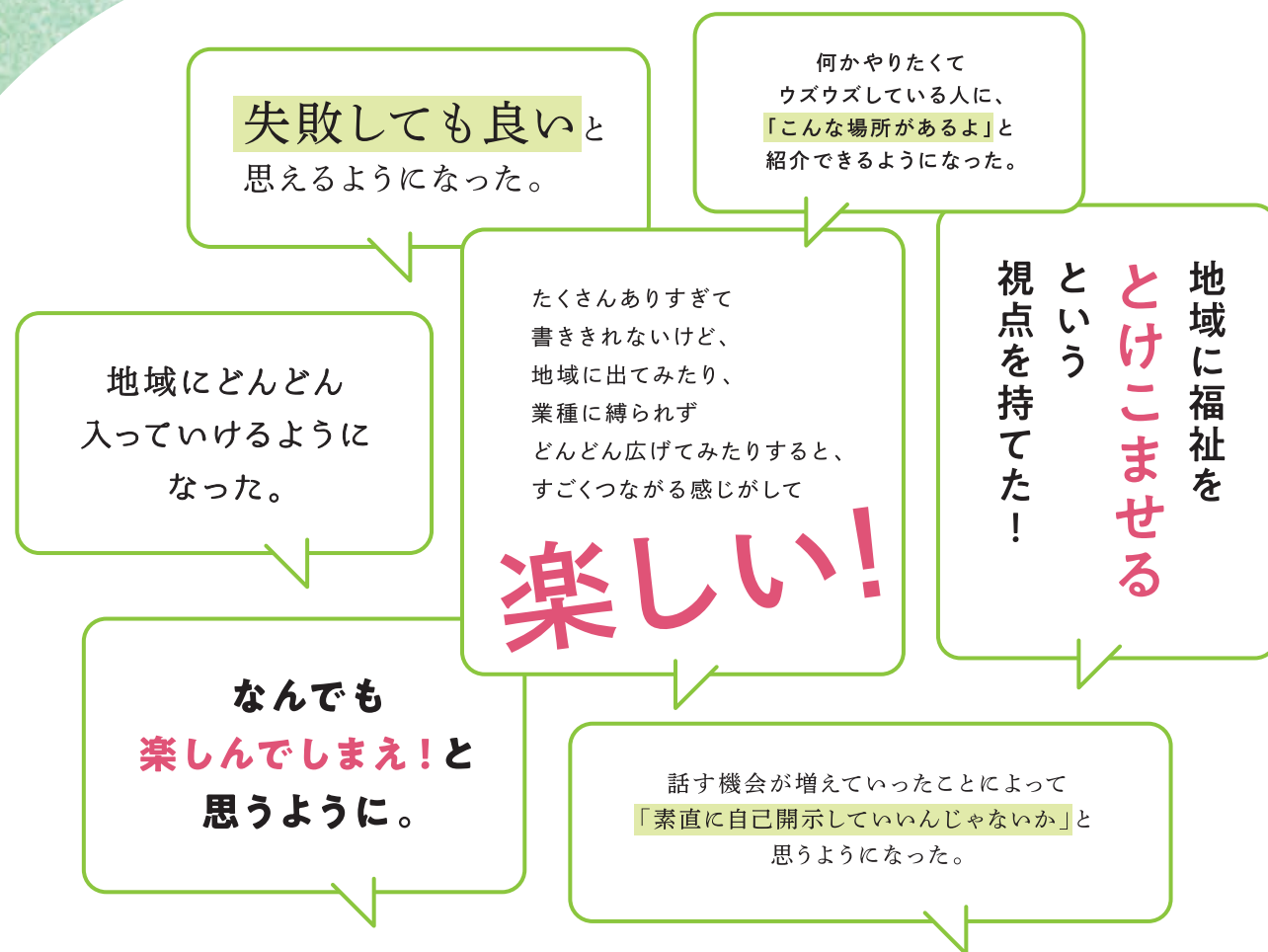
荒木さん：そうですね。僕も積極的にふくフク研には関わっていききたいと思っていますし、もっと巻き込んでくださいますとも思っています！

荒木さんの こころとアクションの変化のプロセス

9月のトークライブに誘われて参加。「次は司会をやってみたら？」と提案をされる。

周囲に相談をしながら1月のトークライブで司会進行にチャレンジ！

ふくフクフェスで競技用車椅子の体験ブースを担当。関われることって楽しい！



自分のマインドも施設も地域にひらいていく

PICK UP!

かねこ まさし
兼子 仁志さん

就労継続支援B型施設YUI WORK施設長／
一般社団法人ゆいまある理事



最初、知り合いに紹介してもらって「ふくフク研」に関わるようになりました。参加した当初は自分の意見を場で共有することに大きな抵抗があったんですが、ワークショップやイベントなどでみなさんと何度か顔を合わせるようになり、誰かと関わることや自分の考えを話すことの心理的ハードルがどんどん下がっていきました。今では「地域における課題はそこで暮らすい

ろんな人たちのスキルや資源の組み合わせで解決できるんじゃないか」と思うまでになったのですが、自分でも驚きます。みなさんとの関わりで自分自身が大きく変わっていったんですね。今後は、自分たちが運営している就労継続支援B型のスペースをうまく活用してさらなる地域との関わりをつくっていきたいと考えています。

顔見知りからはじまる福祉

PICK UP!

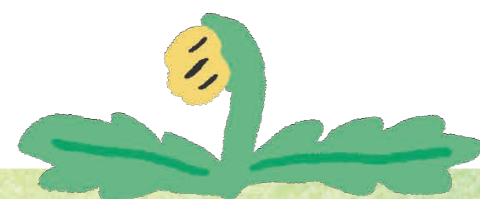
おぐら たくま
小倉 拓馬さん

おーぐばん店主



「おーぐばん」は「リノベーションスクール@そうか」から生まれたお店なんです。「リノスク」で出会った人たちにも関わってもらいながら、オープンにまで漕ぎ着けました。開店してからもう5年目になるのですが、少しずつ新しいこともスタートできたらと思って、今回「ふくフク研」のワークショップに参加したり、「ふくフク商店街」に参加したりしました。その過程で障がいに対しての考え方が

少しずつ変わっていったように思います。自分にも障がいのある娘がいるのですが、地域には自分が知らない人や障がいのある人がいることを知って。お店でもなにかできたらということで、障がいのある人の受け入れを検討しはじめていますし、ほかにも障がいのある人との共同開発プロジェクトなんかもはじまっていて。今までになかった取り組みが少しずつ生まれている感じがですね。





草加市の

これまでと

これから

福祉のセカイでは、草加光陽育成会や草加市聴覚障害者協会、草加市スポーツ協会などによる長きにわたる活動が続いてきた草加市。

最近では「^{アソビ}&プロジェクト」という就労支援や生活介護に関する事業者が集まったチームが誕生し、そこではマーケットイベントの企画や製品のコラボレーションなどが進められています。

一方で、まちづくりのセカイでは、そうかりノベーションまちづくり事業などを通して、地域のキーパーソンがどんどんと増えていきました。

そんな動きが、少しずつまざりはじめた2023年。この冊子では、その一部をご紹介させていただきました。

障がいがあってもなくても、楽しく暮らしていける草加市へ。仕事も、あそびも、暮らしも、ぜんぶ。

今後、さらにその活動が広がっていきそうです。

これから これまでと 草加市の

さまざまな取り組みを通して、いくつかの活動やプロジェクトのきっかけが見えてきました。このページでは、すでに実現した「花」の事例、これから形になりそうな「芽」の事例、いつかやってみたい「種」の想いの3つに分類してご紹介します。

花
事例

さらにふくらんだ、 福祉事業所との連携

外壁塗装の会社「アークス」は地域貢献に力を入れている会社。以前から福祉事業所の職場体験の受け入れなどをしていましたが、ふくフク研をきっかけに福祉事業所と連携し、市役所にある車椅子ユーザーなどの優先駐車場の塗装を実施しました！

花
事例

PAKAN×ああるで クッキーコラボ！

草加にあるおしゃれなカフェ「PAKAN」と就労継続支援B型事業所の「あある」がコラボしてクッキーを製造。デザインがとってもかわいい！絵は「あある」に通う利用者さんが描いたものなんです。

芽
事例

イベント出店、増加中。

素敵なデザインのチョコレートをつくっている「YUI WORK」ですが、「ふくフク研究所」に関わりはじめて、いろんなイベントへの出店が増えているみたい。

芽
事例

ハードなパンも、 ソフトなパンも。

ハード系のパンをつくっている「おぐばん」。ですが今後は、そしゃくすることが難しい高齢の方や障がいのある方向けに、新しく食べやすいソフトなパンの開発がはじまりそうです。ちなみに、研究員の霜田健成くんとの共同プロジェクト！

芽
事例

市内各所で 職場実習の受け入れが！

ふくフク商店街などの企画で障がいのある方が運営サポートをしたことをきっかけに、カフェやパン屋での職場実習の受け入れが始動。さらには雇用まで視野に入れているんだとか！

種
事例

ダイバーシティ& インクルージョンマップを つくりたい！

「障がいのある子どもと一緒に行きやすい店や場所のマップをつくってみたい！」という声もあります。障がいのあるお子さんのいる保護者のみなさんの声をどう形にしていけるか？みんなで考えていければと思います。

種
事例

〇〇カフェを やってみたい！

きつ音のお子さんがいるお母さんが「きつ音カフェ（〇〇な体験ができるカフェ）」をやってみよう！と発案。市内のカフェを活用して、多様な特性や障がいに触れる機会がスタートしそう。

種
事例

まちの保健室を やってみたい！

地域の中で日常的なケアを行う「コミュニティナース」を実践してみたいとの声も。草加市内のあちこちで活動する姿が見れる日も近いかも？

種
事例

大学との共同研究が スタート！？

地域との関わりを求めている大学と連携し、福祉事業所の利用者のQOLを向上するための取り組みがスタート。大学生のアイデアで3Dプリンターを使った補助具の製作を行うなど、これからの展開に期待大！

種
事例

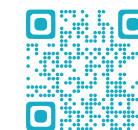
草加市に増やそう！ ごちゃまぜな場！

公共空間や空き家を活用した地域の居場所づくりが話題に。障がいのある方はもちろん、高齢の方や不登校の児童まで、いろんな人が交流できる場所が増えるかも？

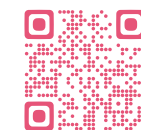
ふくフク研究員募集中！

「ふくらむフクシ研究所」は新しい「研究員（だれでもなれます）」を募集しています。一緒に研究や活動を進めていきませんか？お気軽に各種SNSのダイレクトメッセージなどでご連絡ください。

Instagram



Facebook



知らない世界は 誰にでもある。 だから関わろう。 たのしもう。

「なんだ、この冊子?」と思って手に取った方も、
「なんか、かわいい!」と思って見てくださった方も。
「福祉の取り組みかな?」と思って目を通した方も、
「まちづくりの事例かな?」と思って読んでくださった方も。

いろんな視点と立場が混ざり合い、
だからこそ、さらなる価値が生まれていくのだと思います。

福祉プラスのまちづくり事業は、障がいのある人もない人も、
福祉に関わる仕事をしている人もそうでない人も、
たくさんの人が関わり合いながら
みんなにとって暮らしやすい草加市について考え、
取り組むためのプラットフォームであり、コミュニティです。

まだまだはじまったばかり。
ですので、これからもたくさんの方に
関わっていただけることを期待しています。
一緒に悩み、一緒に考え、一緒に楽しむ。
そんな景色が、場が、草加市でもっともっと広がっていきますように。